



IPv6 ACL の設定

- [IPv6 ACL の概要, 1 ページ](#)
- [IPv6 ACL の制限, 4 ページ](#)
- [IPv6 ACL のデフォルト設定, 5 ページ](#)
- [IPv6 ACL の設定, 5 ページ](#)
- [インターフェイスへの IPv6 ACL の付加, 9 ページ](#)
- [VLAN マップの設定, 11 ページ](#)
- [VLAN への VLAN マップの適用, 12 ページ](#)
- [IPv6 ACL のモニタリング, 14 ページ](#)
- [IPv6 ACL の機能情報, 15 ページ](#)

IPv6 ACL の概要

IP Version 6 (IPv6) アクセスコントロールリスト (ACL) を作成し、それをインターフェイスに適用することによって、IPv6 トラフィックをフィルタリングできます。これは、IP Version 4 (IPv4) の名前付き ACL を作成し、適用する方法と同じです。また、スイッチで IP ベースおよび LAN ベース フィーチャセットが稼働している場合、入力ルータ ACL を作成し、それを適用してレイヤ 3 管理トラフィックをフィルタリングすることもできます。

スイッチは、次の 3 種類の IPv6 ACL をサポートします。

- IPv6 ルータ ACL は、ルーテッドポート、スイッチ仮想インターフェイス (SVI) 、またはレイヤ 3 EtherChannel に設定できるレイヤ 3 インターフェイスのアウトバウンドトラフィックまたはインバウンドトラフィックでサポートされます。IPv6 ルータ ACL は、ルーティングされる IPv6 パケットに対してだけ適用されます。
- IPv6 ポート ACL は、アウトバウンドおよびインバウンドのレイヤ 2 インターフェイスでサポートされます。IPv6 ポート ACL は、インターフェイスに着信するすべての IPv6 パケットに対して適用されます。

- VLANACL または VLAN マップは、VLAN 内のすべてのパケットのアクセスを制御します。VLAN マップを使用すると、同じ VLAN 内のデバイス間で転送されるトラフィックをフィルタリングできます。ACL VLAN マップは、L2 VLAN に適用されます。VLAN マップは、IPv6 のレイヤ 3 アドレスに基づいてアクセス コントロールするように設定されています。イーサネット ACE を使用すると MAC アドレスにより、サポートされていないプロトコルがアクセス コントロールされます。VLAN マップを VLAN に適用すると、VLAN に入るすべてのパケットが VLAN マップと照合されます。

スイッチは、IPv6 トラフィックの VLAN ACL (VLAN マップ) をサポートします。

1 つのインターフェイスに、IPv4 ACL および IPv6 ACL の両方を適用できます。IPv4 ACL の場合と同様に、IPv6 ポート ACL はルータ ACL よりも優先されます。

スイッチ スタックおよび IPv6 ACL

アクティブ スイッチは IPv6 ACL をハードウェアでサポートし、IPv6 ACL をスタック メンバに配信します。

スタンバイ スイッチがアクティブ スイッチを引き継ぐと、ACL 設定がすべてのスタック メンバに配信されます。メンバスイッチは、新しいスアクティブ スイッチによって配信された設定を同期し、不要なエントリを消去します。

ACL の修正、インターフェイスへの適用、またはインターフェイスからの解除が行われると、アクティブ スイッチは変更内容をすべてのスタック メンバに配信します。

ACL 優先順位

VLAN マップ、ポート ACL、およびルータ ACL が同じスイッチに設定されている場合、入力トラフィックの場合のフィルタの優先順位は上からポート ACL、VLAN マップ、およびルータ ACL です。出力トラフィックの場合、フィルタの優先順位は、ルータ ACL、VLAN マップ、ポート ACL です。

次の例で、簡単な使用例を説明します。

- 入力ポート ACL と VLAN マップが両方とも適用されている場合に、ポート ACL が適用されたポートにパケットが着信すると、このパケットはポート ACL によってフィルタリングされます。その他のパケットは、VLAN マップによってフィルタリングされます。
- スイッチ仮想インターフェイス (SVI) に入力ルータ ACL および入力ポート ACL が設定されている場合に、ポート ACL が適用されているポートにパケットが着信すると、このパケットはポート ACL によってフィルタリングされます。他のポートで受信した着信のルーティング IP パケットには、ルータ ACL のフィルタが適用されます。他のパケットはフィルタリングされません。
- SVI に入力ルータ ACL および入力ポート ACL が設定されている場合に、ポート ACL が適用されているポートにパケットが着信すると、このパケットはポート ACL によってフィルタリングされます。発信するルーティング IP パケットには、ルータ ACL のフィルタが適用されます。他のパケットはフィルタリングされません。

- SVI に VLAN マップ、入力ルータ ACL、および入力ポート ACL が設定されている場合に、ポート ACL が適用されているポートにパケットが着信すると、このパケットはポート ACL だけによってフィルタリングされます。他のポートで受信した着信のルーティング IP パケットには、VLAN マップおよびルータ ACL のフィルタが適用されます。他のパケットには、VLAN マップのフィルタだけが適用されます。
- SVI に VLAN マップ、出力ルータ ACL、および入力ポート ACL が設定されている場合に、ポート ACL が適用されているポートにパケットが着信すると、このパケットはポート ACL だけによってフィルタリングされます。発信するルーティング IP パケットには、VLAN マップおよびルータ ACL のフィルタが適用されます。他のパケットには、VLAN マップのフィルタだけが適用されます。

VLAN マップ

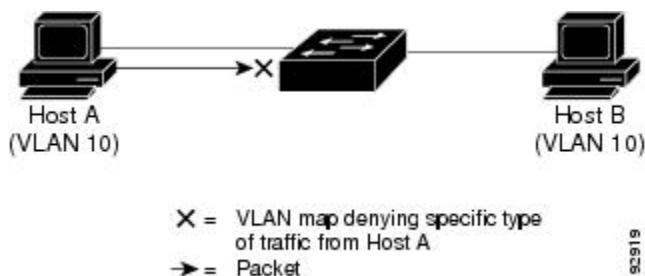
VLAN ACL または VLAN マップは、VLAN 内のネットワーク トラフィックを制御するために使用されます。スイッチまたはスイッチスタックの VLAN 内でブリッジングされるすべてのパケットに VLAN マップを適用できます。VACL は、セキュリティ パケット フィルタリングおよび特定の物理インターフェイスへのトラフィックのリダイレクトだけを目的としたものです。VACL は方向（入力または出力）で定義されることはありません。

すべての非 IP プロトコルは、MAC VLAN マップを使用して、MAC アドレスおよび Ethertype によってアクセス コントロールされます（IP トラフィックは、MAC VACL マップではアクセス制御されません）。VLAN マップはスイッチを通過するパケットにだけ適用できます。ハブ上またはこのスイッチに接続された別のスイッチ上のホスト間のトラフィックには、VLAN マップを適用させることができません。

VLAN マップを使用すると、マップに指定されたアクションに基づいてパケットの転送が許可または拒否されます。

次に、VLAN マップを適用して、特定のトラフィック タイプを VLAN 10 のホスト A から転送できないように設定する例を示します。各 VLAN には、VLAN マップを 1 つだけ適用できます。

図 1: VLAN マップによるトラフィックの制御



他の機能およびスイッチとの相互作用

- IPv6 ルータ ACL がパケットを拒否するよう設定されている場合、パケットはルーティングされません。パケットのコピーがインターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) キューに送信され、フレームに ICMP 到達不能メッセージが生成されます。
- ブリッジドフレームがポート ACL によってドロップされる場合、このフレームはブリッジングされません。
- IPv4 ACL および IPv6 ACL の両方を 1 つのスイッチまたはスイッチ スタックに作成したり、同一インターフェイスに適用できます。各 ACL には一意の名前が必要です。設定済みの名前を使用しようとする、エラーメッセージが表示されます。

IPv4 ACL と IPv6 ACL の作成、および同一のレイヤ 2 インターフェイスまたはレイヤ 3 インターフェイスへの IPv4 ACL または IPv6 ACL の適用には、異なるコマンドを使用します。ACL を付加するのに誤ったコマンドを使用すると（例えば、IPv6 ACL の付加に IPv4 コマンドを使用するなど）、エラーメッセージが表示されます。

- MAC ACL を使用して、IPv6 フレームをフィルタリングできません。MAC ACL は非 IP フレームだけをフィルタリングできます。
- ハードウェアメモリに空きがない場合、パケットはインターフェイスでドロップされ、アンロードのエラーメッセージが記録されます。

IPv6 ACL の制限

IPv4 では、番号制の標準 IP ACL および拡張 IP ACL、名前付き IP ACL、および MAC ACL を設定できます。IPv6 がサポートするのは名前付き ACL だけです。

スイッチは Cisco IOS がサポートする IPv6 ACL の大部分をサポートしますが、一部例外もあります。

- スイッチは、**routing header**、および **undetermined-transport** というキーワードの照合をサポートしません。
- スイッチは再起 ACL (**reflect** キーワード) をサポートしません。
- このリリースは、IPv6 のポート ACL、ルータ ACL および VLAN ACL (VLAN マップ) をサポートしています。
- スイッチは IPv6 フレームに MAC ベース ACL を適用しません。
- ACL を設定する場合、ACL に入力されるキーワードには、それがプラットフォームでサポートされるかどうかにかかわらず、制限事項はありません。ハードウェア転送が必要なインターフェイス (物理ポートまたは SVI) に ACL を適用する場合、スイッチはインターフェイスで ACL がサポートされるかどうか判別します。サポートされない場合、ACL の付加は拒否されます。

- インターフェイスに適用される ACL に、サポートされないキーワードを持つアクセス コントロールエントリ (ACE) を追加しようとする場合、スイッチは現在インターフェイスに適用されている ACL に ACE が追加されるのを許可しません。

スイッチの IPv6 ACL には、次の特性があります。

- 分割フレーム (IPv4 では **fragments** キーワード) がサポートされます。
- IPv6 ACL では、IPv4 と同じ統計情報がサポートされます。
- スwitchのハードウェア スペースがなくなった場合、ACL に関連付けられたパケットはインターフェイスでドロップされます。
- ロギングは、ルータ ACL ではサポートされますが、ポート ACL ではサポートされません。
- スwitchは、プレフィックス長の最大範囲の IPv6 アドレス一致をサポートしません。

IPv6 ACL のデフォルト設定

デフォルトの IPv6 ACL 設定は次のとおりです。

```
Switch# show access-lists preauth_ipv6_acl
IPv6 access list preauth_ipv6_acl (per-user)
permit udp any any eq domain sequence 10
permit tcp any any eq domain sequence 20
permit icmp any any nd-ns sequence 30
permit icmp any any nd-na sequence 40
permit icmp any any router-solicitation sequence 50
permit icmp any any router-advertisement sequence 60
permit icmp any any redirect sequence 70
permit udp any eq 547 any eq 546 sequence 80
permit udp any eq 546 any eq 547 sequence 90
deny ipv6 any any sequence 100
```

IPv6 ACL の設定

IPv6 トラフィックをフィルタリングする場合は、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configureterminal 例： Device# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	{ipv6 access-list list-name 例： Device(config)# ipv6 access-list example_acl_list	IPv6 ACL 名を定義し、IPv6 アクセスリスト コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	{deny permit} protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length any host source-ipv6-address} [operator [port-number]] { destination-ipv6-prefix/ prefix-length any host destination-ipv6-address} [operator [port-number]][dscp value] [fragments] [log] [log-input][sequence value] [time-range name]	条件が一致した場合にパケットを拒否する場合は deny 、許可する場合は permit を指定します。次に、条件について説明します。 <ul style="list-style-type: none"> • protocol には、インターネットプロトコルの名前または番号を入力します。 ahp、 esp、 icmp、 ipv6、 pcp、 stcp、 tcp、 udp、 または IPv6 プロトコル番号を表す 0～255 の整数を使用できます。 • source-ipv6-prefix/prefix-length または destination-ipv6-prefix/ prefix-length は、拒否条件または許可条件を設定する送信元または宛先 IPv6 ネットワークあるいはネットワーククラスで、コロン区切りの 16 ビット値を使用した 16 進形式で指定します (RFC 2373 を参照)。 • IPv6 プレフィックス ::/0 の短縮形として、any を入力します。 • host source-ipv6-address または destination-ipv6-address には、拒否条件または許可条件を設定する送信元または宛先 IPv6 ホストアドレスを入力します。アドレスはコロン区切りの 16 ビット値を使用した 16 進形式で指定します。 • (任意) operator には、指定のプロトコルの送信元ポートまたは宛先ポートを比較するオペランドを指定します。オペランドには、lt (より小さい)、gt (より大きい)、eq (等しい)、neq (等しくない)、range (包含範囲) があります。 <p>source-ipv6-prefix/prefix-length 引数のあとの operator は、送信元ポートに一致する必要があります。destination-ipv6- prefix/prefix-length 引数の</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>あとの operator は、宛先ポートに一致する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • (任意) port-number は、0～65535 の 10 進数または TCP あるいは UDP ポートの名前です。TCP ポート名を使用できるのは、TCP のフィルタリング時だけです。UDP ポート名を使用できるのは、UDP のフィルタリング時だけです。 • (任意) dscp value を入力して、各 IPv6 パケットヘッダーの Traffic Class フィールド内のトラフィッククラス値と DiffServ コードポイント値を照合します。指定できる範囲は 0～63 です。 • (任意) fragments を入力して、先頭ではないフラグメントを確認します。このキーワードが表示されるのは、プロトコルが ipv6 の場合だけです。 • (任意) log を指定すると、エン트리と一致するパケットに関するログメッセージがコンソールに送信されます。log-input を指定すると、ログエントリに入力インターフェイスが追加されます。ロギングはルータ ACL でだけサポートされます。 • (任意) sequence value を入力して、アクセスリストステートメントのシーケンス番号を指定します。指定できる範囲は 1～4,294,967,295 です。 • (任意) time-range name を入力して、拒否または許可ステートメントに適用される時間の範囲を指定します。
ステップ 5	<pre>{deny permit} tcp {source-ipv6-prefix/prefix-length any host source-ipv6-address} [operator [port-number]] {destination-ipv6- prefix/prefix-length any host destination-ipv6-address} [operator [port-number]] [ack] [dscp value] [established] [fin] [log] [log-input] [neq {port protocol}] [psh] [range {port protocol}] [rst] [sequence value] [syn] [time-range name] [urg]</pre>	<p>(任意) TCP アクセスリストおよびアクセス条件を定義します。</p> <p>TCP の場合は tcp を入力します。パラメータはステップ 3a で説明されているパラメータと同じですが、次に示すオプションのパラメータが追加されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ack : 確認応答 (ACK) ビットセット • established : 確立された接続。TCP データグラムに ACK または RST ビットが設定されている場合、照合が行われます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • fin : 終了ビットセット。送信元からのデータはそれ以上ありません。 • neq {port protocol} : 所定のポート番号上にないパケットだけを照合します。 • psh : プッシュ機能ビットセット • range {port protocol} : ポート番号の範囲内のパケットだけを照合します。 • rst : リセット ビットセット • syn : 同期ビットセット • urg : 緊急ポインタ ビットセット
ステップ 6	<pre>{deny permit} udp {source-ipv6-prefix/prefix-length any host source-ipv6-address} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length any host destination-ipv6-address} [operator [port-number]] [dscp value] [log] [log-input] [neq {port protocol}] [range {port protocol}] [sequence value] [time-range name]</pre>	<p>(任意) UDP アクセスリストおよびアクセス条件を定義します。</p> <p>ユーザ データグラム プロトコルの場合は、udp を入力します。UDP パラメータは TCP に関して説明されているパラメータと同じです。ただし、[operator [port]] のポート番号またはポート名は、UDP ポートの番号または名前であればなりません。UDP の場合、established パラメータは無効です。</p>
ステップ 7	<pre>{deny permit} icmp {source-ipv6-prefix/prefix-length any host source-ipv6-address} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length any host destination-ipv6-address} [operator [port-number]] [icmp-type [icmp-code] icmp-message] [dscp value] [log] [log-input] [sequence value] [time-range name]</pre>	<p>(任意) ICMP アクセスリストおよびアクセス条件を定義します。</p> <p>インターネット制御メッセージプロトコルの場合は、icmp を入力します。ICMP パラメータはステップ 1 の IP プロトコルの説明にあるパラメータとほとんど同じですが、ICMP メッセージタイプおよびコードパラメータが追加されています。オプションのキーワードの意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • icmp-type : ICMP メッセージタイプでフィルタリングする場合に入力します。指定できる値の範囲は、0 ~ 255 です。 • icmp-code : ICMP パケットを ICMP メッセージコードタイプでフィルタリングする場合に入力します。指定できる値の範囲は、0 ~ 255 です。 • icmp-message : ICMP パケットを ICMP メッセージタイプ名または ICMP メッセージタイプとコード名でフィルタリングする場合に入力します。ICMP メッセージのタイプ名およびコード

	コマンドまたはアクション	目的
		名のリストについては、? キーを使用するか、またはこのリリースのコマンドリファレンスを参照してください。
ステップ 8	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	show ipv6 access-list	アクセス リストの設定を確認します。
ステップ 10	show running-config 例： Device# show running-config	入力を確認します。
ステップ 11	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

次の作業

インターフェイスに IPv6 ACL をアタッチします。

インターフェイスへの IPv6 ACL の付加

レイヤ 3 インターフェイスで発信または着信トラフィックに、あるいはレイヤ 2 インターフェイスで着信トラフィックに ACL を適用できます。レイヤ 3 インターフェイスで着信トラフィックにだけ ACL を適用できます。

インターフェイスへのアクセスを制御するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configureterminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface interface-id	アクセスリストを適用するレイヤ2インターフェイス（ポート ACL 用）またはレイヤ3 インターフェイス（ルータ ACL 用）を特定して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	no switchport	ルータ ACL を適用する場合は、これによってインターフェイスがレイヤ2モード（デフォルト）からレイヤ3 モードに変化します。
ステップ 5	ipv6 address ipv6-address	レイヤ3 インターフェイス（ルータ ACL 用）で IPv6 アドレスを設定します。
ステップ 6	ipv6traffic-filter <i>access-list-name</i> {in out}	インターフェイスの着信トラフィックまたは発信トラフィックにアクセスリストを適用します。 (注)
ステップ 7	end 例： Device (config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	show running-config 例： Device# show running-config	入力を確認します。
ステップ 9	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

VLAN マップの設定

VLAN マップを作成して、1つまたは複数の VLAN に適用するには、次のステップを実行します。

はじめる前に

VLAN に適用する IPv6 ACL を作成します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configureterminal 例： Device# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	vlan access-map name [number] 例： Device(config)# vlan access-map map_1 20	VLAN マップを作成し、名前と、任意で番号を付けます。番号は、マップ内のエントリのシーケンス番号です。 同じ名前の VLAN マップを作成すると、10ずつ増加する番号が順に割り当てられます。マップを変更または削除するときは、該当するマップエントリの番号を入力できます。 VLAN マップでは、特定の permit または deny キーワードを使用しません。VLAN マップを使用してパケットを拒否するには、パケットを照合する ACL を作成して、アクションをドロップに設定します。ACL 内の permit は、一致するという意味です。ACL 内の deny は、一致しないという意味です。 このコマンドを入力すると、アクセスマップコンフィギュレーションモードに変わります。
ステップ 4	match {ip ipv6 mac} address {name number} [name number] 例： Device(config-access-map)#	パケットを1つまたは複数のアクセスリストに対して照合します。パケットの照合は、対応するプロトコルタイプのアクセスリストに対してだけ行われます。IP パケットは、IP アクセスリストに対して照合されず、非 IP パケットは、名前付き MAC アクセスリストに対してだけ照合されます。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>match ipv6 address ip_net</code>	(注) パケットタイプ (IP または MAC) に対する <code>match</code> 句が VLAN マップに設定されている場合で、そのマップアクションがドロップの場合は、そのタイプに一致するすべてのパケットがドロップされます。 <code>match</code> 句が VLAN マップになく、設定されているアクションがドロップの場合は、すべての IP およびレイヤ 2 パケットがドロップされます。
ステップ 5	<p>IP パケットまたは非 IP パケットを (既知の 1 MAC アドレスのみを使って) 指定し、1 つ以上の ACL とそのパケットを照合するには、次のコマンドのいずれかを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>action { forward}</code> Device (config-access-map) # action forward • <code>action { drop}</code> Device (config-access-map) # action drop 	マップ エントリに対するアクションを設定します。
ステップ 6	<p><code>vlan filter mapnamevlan-list list</code></p> <p>例 :</p> <pre>Device (config) # vlan filter map 1 vlan-list 20-22</pre>	<p>VLAN マップを 1 つまたは複数の VLAN に適用します。</p> <p><code>list</code> には単一の VLAN ID (22)、連続した範囲 (10 ~ 22)、または VLANID のストリング (12、22、30) を指定できます。カンマやハイフンの前後にスペースを挿入することもできます。</p>

VLAN への VLAN マップの適用

1 つの VLAN マップを 1 つまたは複数の VLAN に適用するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configureterminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	vlan filter mapnamevlan-list list 例： Device(config)# vlan filter map 1 vlan-list 20-22	VLAN マップを 1 つまたは複数の VLAN に適用します。 list には単一の VLAN ID (22) 、連続した範囲 (10 ~ 22) 、または VLAN ID のストリング (12、22、30) を指定できます。カンマやハイフンの前後にスペースを挿入することもできます。
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show running-config 例： Device# show running-config	アクセス リストの設定を表示します。
ステップ 6	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

IPv6 ACL のモニタリング

次の表に示された 1 つまたは複数の特権 EXEC コマンドを使用して、設定済みのすべてのアクセスリスト、すべての IPv6 アクセスリスト、または特定のアクセスリストに関する情報を表示できます。

コマンド	目的
show access-lists	スイッチに設定されたすべてのアクセスリストを表示します。
show ipv6 access-list [<i>access-list-name</i>]	設定済みのすべての IPv6 アクセスリストまたは名前で指定されたアクセスリストを表示します。
show vlan access-map [<i>map-name</i>]	VLAN アクセス マップ設定を表示します。
show vlan filter [<i>access-map</i> <i>access-map</i> <i>vlan</i> <i>vlan-id</i>]	VACL と VLAN 間のマッピングを表示します。

次に、**show access-lists** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。出力には、スイッチまたはスイッチ スタックに設定済みのすべてのアクセス リストが表示されます。

```
Switch # show access-lists
Extended IP access list hello
  10 permit ip any any
IPv6 access list ipv6
  permit ipv6 any any sequence 10
```

次に、**show ipv6 access-lists** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。出力には、スイッチまたはスイッチ スタックに設定済みの IPv6 アクセス リストだけが表示されます。

```
Switch# show ipv6 access-list
IPv6 access list inbound
  permit tcp any any eq bgp (8 matches) sequence 10
  permit tcp any any eq telnet (15 matches) sequence 20
  permit udp any any sequence 30
IPv6 access list outbound
  deny udp any any sequence 10
  deny tcp any any eq telnet sequence 20
```

次に、**show vlan access-map** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。出力には、VLAN アクセス マップ情報が表示されます。

```
Switch# show vlan access-map
Vlan access-map "m1" 10
  Match clauses:
    ipv6 address: ip2
  Action: drop
```

IPv6 ACL の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースのみを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよび Cisco ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1 : IPv6 ACL の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 ACL	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	<p>IPv6 ACL を作成して、インターフェイスに適用することによって、IPv6 トラフィックをフィルタリングできます。これは、IPv4 の名前付き ACL を作成し、適用する方法と類似しています。また、スイッチで IP ベースおよび LAN ベースフィーチャセットが稼働している場合、入力ルータ ACL を作成し、それを適用してレイヤ 3 管理トラフィックをフィルタリングすることもできます。</p> <p>この機能は、次のプラットフォームに実装されていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Catalyst 9300 シリーズ スイッチ

